

『Mind Charging』

第 24 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 5 月 9 日

志村けんの名言



オレはいつでも「個性は変人、常識は凡人」でいたいと思っている。

新型コロナウイルスに感染し、3月29日にこの世を去った志村けん氏。幼い頃から大好きで、彼の死を悲しんだ人も多いのではないのでしょうか。間違いなく私もその一人です。

昭和・平成・令和と三つの時代を、日本を代表するコメディアンとして活躍し続けました。一年で流行がガラッと変わってしまう現代において、彼の扮する『バカ殿様』や『変なおじさん』など、発信し続けたキャラクターやコントは、何十年も全ての世代に受け入れられ、愛されてきました。私が幼い頃は、今ほどバラエティ番組やテレビで活躍する芸人さんは多くありませんでした。土曜日の8時から放送されていた『8時だヨ！全員集合』を家族で見るのが当たり前の習慣で、見逃すと月曜日の学校での話題についていけないほどで、今になっても私の世代は『志村』という名前だけで笑ってしまうくらいです。未だかつて、存在そのものがギャグとってしまうほどの面白さを持つ人が存在したでしょうか。

学校の集会等で『悪影響だから志村けんの出ているテレビ番組は見てはいけない』と指導されるほど絶大な影響力がありました。確かに今のテレビでは許されていない内容のものもありました。でも、子供たちは先生のいうことを聞きませんでした。保護者でさえ、子供たちの彼への情熱を抑えることはできませんでした。当時を思い返してみると奇跡としか言いようがありません。それを成立させたのは、彼の圧倒的な『才能と努力＝個性』と、バラエティ番組『志村どうぶつ園』などで見せる大きな『優しさ（愛情）＝常識』があったからだと思います。そして、この言葉からも読み取れるように、常に見られている存在という自覚から生まれる『見る側に立って考える』という意識が高かったことも彼の人気の秘訣と言えるでしょう。

面白いことに限らず、人に何かを伝えるということは非常に難しいと思います。時間は有限であり、人の感情は常に揺れ動いているという中で、自分が伝えたいことを伝えたいように伝える。彼の残したこの言葉には、人とのコミュニケーションにおける永遠のテーマとして、私たちに送られたメッセージなのかもしれません。（編集委員：入試広報室 鈴木）

志村 けん(しむら けん、1950年2月20日 - 2020年3月29日)は、日本のコメディアン、お笑いタレント、司会者である。ザ・ドリフターズのメンバー。イザワオフィス所属。1972年までの旧芸名および中国語での表記は「志村 健」。本名は志村 康徳(しむら やすのり)。(Wikipedia 参照)